

野外観察の拠点

自然発見工房



各種観察用具・図鑑を貸し出します。

●観察用具

(双眼鏡・シャベル・ルーペなど)

●各種図鑑

(植物図鑑・野鳥図鑑・昆虫図鑑など)

休憩等にもご利用できます。学校団体等での部屋の使用は、事前に相談してください。13:30から行われる野外ガイドツアーの集合場所にもなります。

発見を体験する

自然発見器



遊びながら、いろいろな虫や鳥などのまねをして、その生活や行動を疑似体験することができます。また、太陽・風・土・水などの自然現象を楽しく観察できるように工夫しています。

いろいろな動物の巣をまねた「動物の巣」、林を下から上まで移動しながら眺める「りすの目タワー」、「100m伝言パイプ」など、さまざまな自然発見器がみなさんをお待ちしています。

日付

年 月 日

氏名



ミュージアムパーク

茨城県自然博物館

〒306-0622 茨城県坂東市大崎700番地 TEL0297-38-2000
[ホームページアドレス] <http://www.nat.pref.ibaraki.jp/>

携帯電話からもホームページをご覧いただけます。



バーコードで簡単アクセス



このパンフレットは100%再生紙を使用しています。

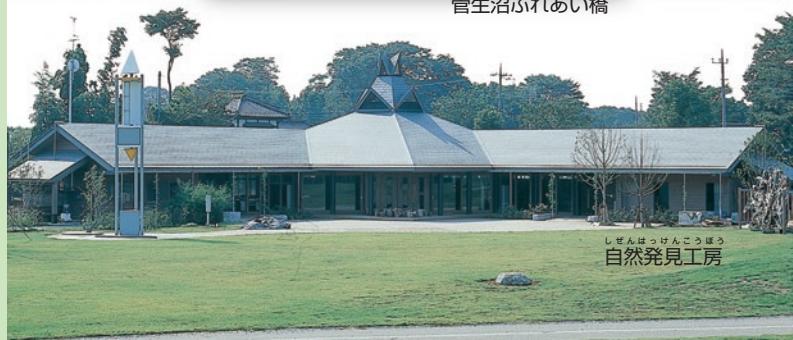
OUT DOOR SELF GUIDE

ひとりで学べる
野外セルフガイド

年間



菅生沼ふれあい橋

しづかんこうぼう
自然発見工房

ミュージアムパーク

茨城県自然博物館

四季とともに移り変わる自然の表情をさまざまな視点で観察してみましょう。



春 SPRING

やわらかな日差しの中で
新しい生命の息吹につつまれる春。

ウメやサクラ、スミレなど最も多くの種類の花が咲く春、
冬の寒さを乗り越えた昆虫やカエルなどの
動物たちも動き始めます。3月も半ば近くになると、
菅生沼のコハクチョウやカモ類などの冬鳥も、
シベリア方面へ旅立ちます。



ヨシノボリ(ハゼの仲間)

動物

トンボの池では、カエルの産卵が始まり、水がぬるんでくるとフナ類やハゼ類の稚魚も泳ぎだします。また、モンシロチョウやアゲハチョウなども活動を始めます。やがて園内の林には、ウグイス・ホトトギスが飛来し、盛んにさえずる声が聞こえます。



植物

3月下旬、寒々とした雑木林の所々に、真っ白なコブシが木全体に咲き、やがてソメイヨシノの並木が一面に花開きます。雑木林の新緑が次第に彩りを増す頃、林床にはフタリシズカやチゴユリの群落が、またキンランやギンランの花も点々と見られます。

地学

「春の天気は3日まで」といわれるのように、天気が変わりやすい季節です。これは移動性の高気圧と低気圧によります。

夏 SUMMER

木々や花々が、虫や鳥たちが
生命の喜びを躍動させる夏。

初夏の水辺には、アヤメなどのなかまが咲き、
夏至を過ぎた頃、ハンゲショウの葉は白くなります。
園内には、オオヨシキリの声も聞かれます。
昆虫の森をはじめ園内各所で、
クワガタなどの昆虫たちの生活も観察されます。



オニヤンマ

動物

トンボの池や沼周辺のヨシの群落から、オオヨシキリがなわばりを宣言するように盛んにさえずっています。また、トンボの池には、菅生沼と往来する種類を含めて、多くのトンボが見られます。産卵の様子やなわばりなど、さまざまな行動を観察してみましょう。

植物

初夏の水辺には、ハナショウブやその原種であるノハナショウブ、そして外来種のキショウブが花を開きます。また、雑木林には、ヤマユリの香りが広がります。さらに、ヤマジノホトトギスのつぼみが膨らむ頃、夏も終わりに近づきます。



ヤマユリ



地学

停滞前線による梅雨の時期と、その後の晴れの多い時期があります。

南風が多いため、湿気が多いのが特徴です。

秋 AUTUMN

爽やかな風の中で、やがてくる
季節への備えが始まる秋。

秋の七草など他に、水辺には淡紅色のミゾソバが、
林縁にはガマズミやムラサキシキブなどの実も見られます。
また、アキアカネ・ノシメトンボなどの赤とんぼや
コオロギなど秋の虫の音も聞こえてきます。



アオマツムシ

動物

園内の木々の実を食べに様々な鳥がやって来ます。なわばりを宣言するモズのかん高い声も、響きわたります。運がよければ、小動物を木の枝にさす「はやにえ」が見つかるかもしれません。また、夕方になると、樹上では外来種のアオマツムシが合唱をはじめます。

植物

秋の七草のうち、ヤマハギ・スキ・クズ・オミナエシ・キヨウ・フジバカマが園内にあります。いくつ見つかるでしょうか。また、いろいろな木の実やきのこ(菌類)などの森からの贈り物を探してみましょう。



ナラタケ

地学

台風や秋霖(秋の長雨)の時期から周期的に変わりやすい天気へと変化し、気持ちの良い秋晴れが見られるようになります。



せんくもん
雲

冬 WINTER

長くきびしい寒さのもと生き物たちが試練に耐える冬。

冬には、一部に見られる照葉樹や針葉樹を除き、雑木林はすっかり葉を落とします。枯れたヨシやマコモの広がる菅生沼には、コハクチョウ・コガモ・オナガガモなどの冬鳥が見られます。

動物

菅生沼には300羽近くのコハクチョウがやってきます。また、コガモなどのカモ類も数多く見られます。オオタカやチュウヒなどの猛禽類も見られます。菅生沼ふれあい橋などから、野鳥の生活を観察しましょう。



コハクチョウ

植物

冬芽の形や葉のおちた痕の形、タンポポなどの草たちが冬を越す様子などを観察してみましょう。また、冬に咲くヤブツバキ・サザンカなどの樹木や春を告げるフクジュソウの花が見られるかもしれません。



ヤブツバキ

地学

冬の天気の特徴 冬は大陸側の気圧が高く、東の太平洋側の気圧が低い西高東低の気圧配置になります。日本付近では北西の季節風が吹き、日本海側では雪または雨が降り、太平洋側では晴天で空気が乾燥した日が続きます。



1995年1月26日15時